

オオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウ船上見学報告

日時/2017 年 11 月 15 日(水) 9:00~11:00 見学場所/ 手賀沼上沼(手賀大橋の西側)

参加者/中井克樹氏、林紀男氏、鈴木広美氏、古川大恭氏、森晃氏、美手連(八楸雅子、中野一字、間野吉幸、小倉久子、半沢裕子)、手賀沼の小池 船頭さん

報告/半沢裕子(手賀沼水生生物研究会)

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。



【若松の植生帯(水草再生のための構造物)付近 第5 樋管から第1 樋管までの間】

9 月 6 日にオオバナミズキンバイが広範囲に広がっていることを確認した場所。オオバナミズキンバイが一層繁茂していた。

① 第5 樋管周辺

樋管の東側の群落(1 つ)はナガエツルノゲイトウ、西側の小群落 2 つはオオバナミズキンバイであり、オオバナミズキンバイが根を張っていることを確認した。ヒメガマの間にも繁茂していた。さらにその西側の岸(第5 樋管と第4 樋管の間)に設置された構造物の中(写真の奥側)ではオオカワヂシャも確認されている。



▲写真奥の構造物内にはオオカワヂシャも

② 第4 樋管周辺

第5 樋管西側の岸に設置された構造物から第4 樋管の西側まで、オオバナミズキンバイが繁茂。特に、第4 樋管の西側は岸から沖の植生帯構造物までオオバナミズキンバイの群落がつながり、橋のようになっていた。



上と右の写真は、岸と構造物をつなぐ橋状になったオオバナ群落(左)に船を乗り入れたところ

③ 第3 樋管と第2 樋管の間の埋め立て地周辺

埋め立て地の西側に並べられたフレコンバックの前はナガエツルノゲイトウだった。



▲埋立地の西側に並べられたフレコンパックの近く ▲ 遊歩道のあずまやの前

④ 第1樋管周辺

第1樋管の東側はナガエツルノゲイトウ群落。第1樋管の西側、手賀沼公園との間の群落はナガエツルノゲイトウで、へりがオオバナミズキンバイに置き換わっていた。



【我孫子新田～根戸新田】

ナガエ群落の多い場所だが、その多くの先端がオオバナに置き換わっているのを確認した。

⑤ サイゼリヤ前～すし勢前

サイゼリヤ前にある鉄のデッキの東側はナガエツルノゲイトウからオオバナミズキンバイへの移行が明らかで「乗っ取り完了」という印象。オオバナミズキンバイは鳥がかじり、先が切れていた。すし勢前にはガマが点在しているが、船頭さんによると「前はこの一帯全部がガマだったが、ナガエにやられてなくなってしまった」。沼底は砂地で固く締まっている。



⑥ 元あびこん前

ラーメン屋前の群落はナガエであることを確認した。しかし、あびこん前のデッキの西側、11月16日に駆除が予定されているナガエ群落は先端がオオバナに置き換わっていた。船頭さん「流れてきたものをここに寄せた。ほかに置き場所がないので」



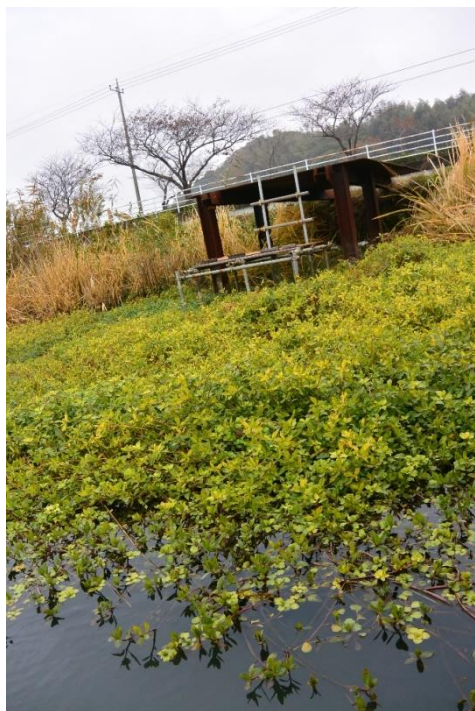
⑦ 日暮邸前

ガマに入り込むようにナガエツルノゲイトウ群落があり、オオバナミズキンバイも入り込んでいる。コブハクチョウが群落内に入り、食べていたように見えた。



⑧ 工事中の土地の前

その西側にもいくつか群落があり、さらに西側の工事中の土地の前のデッキの東側にはオオバナミズキンバイの大群落があった。





⑨ 北柏ふるさと公園周辺

釣り人がたくさん見える。水深が浅くて近づけなかった。

(左上)南岸も水生植物、(右上)北岸も水生植物。(左)大津川河口の釣り人密集地帯も外来水生植物だらけ

【北千葉導水ビジターセンター周辺～大津川河口】

⑩ 南岸の花火台船



台船の両岸にオオバナミズキンバイが大繁茂。台船の鉄板のまで乗り上げていた。中井さん「鉄板は夏場、とても熱くなりますね。でも、枯れない。オオバナミズキンバイは焚火で燃やしたところからも再生しますから」





⑪ 北千葉導水ビジターセンター前

とにかく大群落。しかも、先端の多くがオオバナミズキンバイに。ナガエツルノゲイトウが枯れ始めて黄色くなり、オオバナミズキンバイが青々としているため、違いがよくわかるようになった。



⑫ 大津川河口左側

ナガエツルノゲイトウの群落を確認できたが、浅くてそれ以上近づけなかった。

【下沼(手賀大橋の東側)】

ハス群落の中にナガエらしき大きな群落が漂流している。岸(入江)にもさらに大きな群落が漂流していた。漂流中のナガエ群落は全部で3つ確認した。鳥の博物館の東側にもナガエツルノゲイトウの小群落が上陸していた。林さん「フィッシングセンターの栈橋のところにはナガエがある」間野さん「温泉のところまでナガエ群落を確認した」



